

JA全農ウィークリー WEEKLY

6面

土壌診断を活用した施肥改善へ 埼玉県で生産者向け青空講習会

2面

農場担当者に衛生知識啓発
クリニックセンター大阪・東北分室が研修会



「土壌」をテーマに開いた青空講習会(6面)



営農・技術センターの「ふれあいオープンデー」でお米「はるみ」を来場者にプレゼント(3面)



広島県本部の直売所「JA交流ひろば」とれたて元氣市の16周年感謝祭でルールに挑戦する親子連れ(3面)

- 2 ニュース&トピックス(米穀部、畜産生産部)
- 3 ニュース&トピックス(営農・技術センター、広島県本部)
- 4 JAズームイン(JA石川かほく)
- 5 県本部だより(長崎県本部)
- 7 畜産情勢(畜産総合対策部)
- 8 コミュニケーション(神奈川県本部、JAタウン)



全
国
農
業
キ
ャ
ラ
図
鑑

このキャラクターの詳細は紙面のどこかに...



News!



福岡・戸田(埼玉県)マラソンで焼き餅配布

国産もち米を今年もPR

米穀部



参加者に焼き餅を配布した「福岡マラソン」

「福岡マラソン2017」のゴール地点の糸島市交流プラザ志摩会館付近には、午前11時頃から42・195キロを走り終えたランナー1万人が続々と集まり、全農のブースでは「マラソンの栄養補給にはおもちがピッタリです」「国産の焼き餅をぜひ試食ください」という呼び声の下、市民ランナーに焼き餅8000個を配布し、午後4時には配布を終えました。

「福岡マラソン2017」のゴール地点の糸島市交流プラザ志摩会館付近には、午前11時頃から42・195キロを走り終えたランナー1万人が続々と集まり、全農のブースでは「マラソンの栄養補給にはおもちがピッタリです」「国産の焼き餅をぜひ試食ください」という呼び声の下、市民ランナーに焼き餅8000個を配布し、午後4時には配布を終えました。

全農は、全国のマラソン大会でランナーを対象に、もちがマラソンに適した食材であることのPR活動を継続的に実施しています。11月12日の「福岡マラソン2017」、19日の「戸田マラソン」(埼玉県)に昨年に引き続き出展し、焼き餅の試食配布と国産もち米に関するパネル展示を行いました。



子どもにも好評だった「戸田マラソン」の焼き餅配布

国民の健康指向の高まりの中で、マラソンブームが定着し今後も競技人口の増加が見込まれることから、全農はこれからもマラソン大会を中心に国産もち米の消費拡大に向けた取り組みを継続し、マラソンにおけるおもちの相性の良さをPRしていきます。

ナーやその家族・知人らに焼き餅を配布しました。午前10時の配布開始と同時に例年以上の行列ができ、午後1時30分には用意した3500個の焼き餅の配布を終えました。

News!



大阪、仙台で農場担当者に衛生知識を啓発

クリニックセンター大阪・東北分室が研修会開催

畜産生産部(家畜衛生研究所)



乳房炎対策や牛で流行している病気についての研修会(大阪分室)

クリニックセンター大阪分室の今年度第1回研修会は11月9日、乳房炎対策や牛で流行している病気について22人の参加を得て開きました。東北分室は第1回研修会(5月31日、23人の養豚担当者向け)に続いて、第2回研修会を11月15日に仙台市で開き、13人の養鶏担当者に鳥インフルエンザ、全国鶏病動向や養鶏衛生のトピックスの紹介な

家畜衛生研究所は家畜の予防衛生を通じて、農家所得の向上と食の安全に貢献し、その一部のクリニックセンター・分室は、疾病対策を中心に畜産現場での衛生指導を行っています。一緒に農場対応を行っている各管内くみあい飼料・県本部などの担当者を対象に、衛生知識の啓発とレベルアップを目的に研修会を開きました。



養鶏担当者向け研修会(東北分室)

どを行いました。クリニックセンターの分室では、これまでも農場担当者向けや生産者向けの各種研修会を随時開いており、研修内容もニーズに合わせて多岐にわたります。日頃の疾病検査や衛生指導とともに、研修会を通じた啓発活動が農場の生産性や衛生レベル向上の一助となるよう、今後も継続していきます。



地域に浸透、ふれあいオーブナー

雨の中300人を超す来場者

営農・技術センター



あいにくの天候の中、300人を超える方が来場

このイベントは今年で5回目となり、地域の方に浸透してきているようで、あいにくの雨の中の開催でしたが、300人を超える地域住民に来場いただきました。

イベントスタッフには、(株)全農ビジネスサポート平塚支店や隣接するJA全農青果センター(株)神奈川センターから応援を受け、グループ一丸となって来場者へ対応しました。また、広報部からも全農のCMや各種資料の提供を受け、来場者へ全農の取り組みを紹介しました。

営農・技術センター(神奈川県平塚市)は10月21日、地域住民の方々への日頃の感謝と全農の取り組み紹介のために「ふれあいオーブナー」を昨年に引き続き開きました。



16年のご愛顧に感謝

直売所「とれたて元気市」で感謝祭

広島県本部



常に行列ができていた「ひろしま牛」の炭火焼き

同直売所は2001年10月6日、JAグループ広島の地産地消運動実践の場としてオープン。精肉や鮮魚コーナーを追加するなど利便性向上を図ってきました。来店客数・売り上げともに拡大を続け、今では県内最大級の直売所となっています。

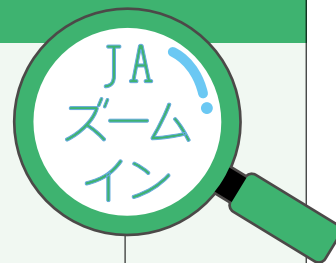
当日は同直売所に出荷している生産者が商品の試食や販売を行った他、県内4JAもブースを設けて特産品を販売しました。

当日は同直売所に出荷している生産者が商品の試食や販売を行った他、県内4JAもブースを設けて特産品を販売しました。

広島県本部の直売所「JA交流ひろばとれたて元気市」(広島市安佐南区)は11月11日、16周年感謝祭を開きました。飲食ブース出店の他、ミカンや卵の詰め放題、レモン数量当てクイズなどのイベントを行い、家族連れなどでにぎわいました。

当日は同直売所に出荷している生産者が商品の試食や販売を行った他、県内4JAもブースを設けて特産品を販売しました。

当日は同直売所に出荷している生産者が商品の試食や販売を行った他、県内4JAもブースを設けて特産品を販売しました。



農業者の所得増大に向け

水稻省力化、6次商品開発

JA石川かほく
(石川県)



概要 平成29年3月31日現在

正組合員数	5035人
准組合員数	4189人
職員数	181人
販売取扱高	33億6千万円
購買品取扱高	24億4千万円
貯金残高	738億1千万円
長期共済保有高	3226億5千万円
主な農畜産物	米、ブドウ、柿、小松菜、 ダイコン、スイカ

JA石川かほくは今年度、第7次中期3カ年計画を策定し、JA自己改革の実現に向け取り組んでいます。自己改革の基本目標の

一つである「農業者の所得増大」に向けて、「生産費ダウン」と「販売高アップ」の実践に努めています。

**水稻高密度播種で
低コスト・省力実証**

水稻育苗箱への高密度播種は、資材費の削減や管理

労力・移植作業時間の低減など低コスト技術として期待されています。JAは今年、管内の10町の圃場5カ

所で実証に向けた試験を行いました。地域営農組織や生産者が集う地域農業推進

大会を開き、高密度播種講座を行うとともにJAまつりでの実演など、普及に向けて取り組んでいます。次回開催(3月)予定の地域農

業推進大会では、実証結果



地域農業推進大会で水稻コストダウンへの取り組みを紹介

などを報告します。来年には、育苗センターで高密度播種苗の供給を計画しています。

**特産品を活用して
6次化新商品開発**

北陸新幹線開業で、交流人口が増えています。これ

をチャンスと捉え、JA管内の特産品を活用した6次化商品の開発に取り組んでいます。

紋平柿では、規格外果や下位等級品を利用して焼き菓子(タルト)を開発しました。生産物の有効利用とともに生産者の所得アップ



特産品を活用した6次化商品。上から、いけなら紫の甘納豆・細うどん・チョコサンド、紋平柿タルト、まこも焼酎はくの里とキャラクター「はくの里」

豆、「細うどん」、「チョコサンド」を開発し、販売を始めました。この取り組みにより、農業者の所得増大と農山村の元気づくりができるよう、活動を強化していきます。

県本部 だより

長崎県本部



「味にこだわる長崎みかん」

ブランド品の拡大で消費拡大



生産者が研修会で店頭に立ち試食宣伝会

現在、長崎みかんの出荷のピークを迎えています。長崎県は、温州みかん生産量全国5位（2016年度）の産地で、「味にこだわる長崎みかん」を目標として生産・出荷しています。

「二つの県下統一ブランドを確立」

温州みかんでは、一定の基準を満たした果実をブランド品として販売しています。長崎みかんには、各産地のブランドの他に、県下統一ブランドとして「出島の華」と「長崎恋みかん」があります。「出島の華」は、昭和50年に本県で発見された「させば温州」の中から、糖度、酸度、食味で高い基準を満たした果実を厳選した最高級ブランドです。また、「長崎恋みかん」



厳選出荷の「出島の華」

は、「恋（味が濃い）」は中身で勝負する」というキャッチフレーズのもと、生産者自らが申請し、管理方法などを統一した「指定園制度」に取り組んだ園地で生産されており、「出島の華」に次ぐ一定以上のおいしさを確保したブランドです。

若手や女性生産者が店頭で消費拡大展開

長崎みかんの消費拡大運動にも積極的に取り組んでいます。その一環として、11月18〜20日、県下の若手・女性生産者を対象とした「長崎みかん流通及びPR研修会」を行いました。これは、生産者自らが店頭に立ち試食宣



指定園制度で生産した「長崎恋みかん」

伝を行うことで、消費者に味と生産者の顔を知ってもらい「長崎みかん」のファンを増やすことと、生産者が流通の現場や消費者のニーズをつかんだ上で、消費者に求められるみかん作りを目指すことが狙いです。

また、長崎みかんの銘柄向上対策として、新キャラクターの「みきゃん」が誕生しました！ 今後、消費者の皆さんに長崎みかんを親しんでもらうために、さまざまな場面でアピールしていきます。

これらの取り組みにより「味にこだわる長崎みかん」の消費拡大を目指しています。

生産者とともに土を育み
産地を育む取り組みへ

埼玉県で農業者向け 青空講習会を開催



飯野会長の圃場の断面を観察する参加者

全農は、平成28年11月に農業者3団体（日本農業法人協会、全国農協青年組織協議会、全国農業青年クラブ連絡協議会）とともに「生産資材費低減に向けた資材事業研究会」を立ち上げました。研究会での議論を深める中で、農業者団体からは、全農の専門性を生かした最新情報の伝達や、人材育成機能を期待する声が多く出されています。今後の農業者支援のあり方を検討するため、11月22日に全青協の飯野芳彦会長の圃場（埼玉県川越市）で、埼玉県農協青年部協議会盟友（JAいるま野、JA南彩管内の生産者）7人を対象に農業生産の基礎となる「土壌」をテーマに講習会を開きました。【肥料農薬部】



豊かな黒土を含む
飯野会長圃場の土壌断面

土壌断面から作土を守り
腐植を守る大切さを共有

1畧も掘られた土壌断面から、上層は柔らかく腐植が充実していることが観察されました。関東宮農資材事業所の金子技術主管は、このような腐植層を守り、団粒構造を維持するために、生産者一人一人が作土の重要性を考えながら、継続的な施肥改善に取り組むことが産地の維持発展に不可欠であると訴えました。

土壌診断を施肥改善に生かす
「土壌診断
PDCAサイクル」実践へ

参加した農業者の土壌分析からは、いくつかの圃場でpH、リン酸、硝酸態窒素が高く、塩基バランスが乱れていることが分かりました。生産者からは「連作圃場が多いので緑肥を入れて改善したい」「カルシウムが多いと指摘があったため、今後は鶏ふんの施用に気を付けたい」「緑肥を作付けて地力を高める工夫をしたい」などの数多くの気付きにつながりました。

また、「もっとこのような講習会や土の勉強に参加して、活発な議論ができればいいなりたい」など決意が述べられ、今後継続的な取り組みとすることを決意して

閉会しました。

全農は、土壌診断を活用した施肥改善を生産者とともに実践することにより、生産者の増収、良品質生産を支援し、手取り最大化の実現を目指します。

土壌診断と施肥改善などを学ぶ参加者



参加者がミーティング形式で課題を浮き彫りに

※PDCAサイクル:仕事を行う管理の基本的な考え方で、何か行動する際、4ステップ=①計画(Plan)②実行(Do)③確認・評価(Check)④改善(Action)=に分けて進め、これを繰り返す

[畜 産 情 勢]

(畜産総合対策部)



牛 肉

強含みで推移

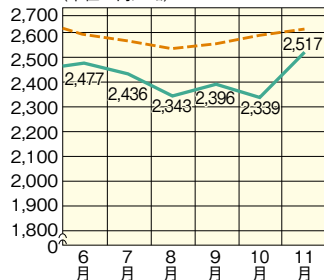
11月の成牛と畜頭数は、速報値で約9万7千頭(前年比93.8%)と減少しています。

11月の東京市場枝肉卸売価格は速報値で、和牛去勢A5が2844円(前年比98.5%)、和牛去勢A4が2517円(同95.4%)、和牛去勢A3が2225円(同91.0%)、交雑牛B3が1436円(同87.3%)と、前年を下回りました。

農畜産業振興機構の12月の国内出荷予測頭数を品種別にみると、和牛が約4万6千頭(前年比102.5%)、交雑牛が約2万3千頭(同108.2%)、乳牛(雌含む)が約2万9千頭(同98.9%)で、全体では約9万9千頭(同102.6%)と見込んでいます。

年末年始に向けた手当では、年内最終せりと年始初せりの間が前年より長くなることもあり、例年よりも早く11月後半から動き出しました。今後、手当が本格化しますが、12月相場は最後まで強含みでの推移が予測されます。

牛枝肉相場(東京市場・和牛去勢A-4)
平成29年6月～29年11月
平成28年6月～28年11月
(単位: 円/頭)



豚 肉

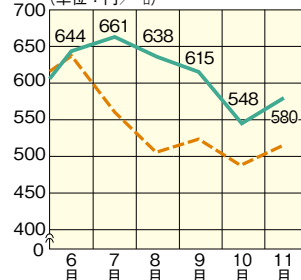
しばらく高値続く

11月の全国と畜頭数は速報値で、約138万頭、前年同比97.1%となっています。

11月の東京食肉市場枝肉相場は速報値で580円/kg(前年比112.8%、前月比105.8%)となり、前月同様に、前年を大きく上回りました。出荷頭数が前年を下回る中、季節的な需要増と水産物カテゴリーからの需要シフトがあり、11月としては平成に入って2番目の高値となりました。

農林水産省食肉鶏卵課発表の12月出荷予測頭数は、約152万頭(前年比102%)です。スライス、鍋物食材などの季節需要に加え、漁獲量が低迷する水産物の代替需要が加わることで、供給を上回る需要が見込まれます。また、依然少な目で推移している国産冷凍在庫を確保する動きも衰えが見えないことから、しばらくは高値が続くものと予測します。

豚枝肉相場(東京市場規格「上」)
平成29年6月～29年11月
平成28年6月～28年11月
(単位: 円/kg)



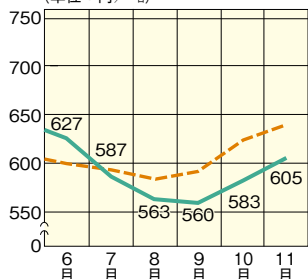
鶏 肉

最需要期 もも中心に上げ

11月の相場は、もも肉605円/kg(前月比22円上げ)・むね肉319円/kg(前月比3円下げ)で、正肉合計で924円/kgと前月比19円上げとなりました。もも肉は、11月初め597円、月末617円と上げ基調ですが、ブラジル産冷凍もも肉の投げ(200円/kg程度との報道)の影響で頭を押さえられたためか、予想より若干安めの展開となりました。むね肉は前月比若干の下げとなっていますが、旺盛な需要に支えられ前年比48円高と相変わず高い水準が継続しています。

12月は最需要期でクリスマス・鍋物需要が増加するため、もも肉を中心に価格上昇が見込まれます。もも肉は月平均で630円、むね肉についても加工筋などからの引き合いが引き続き強く、月平均で320円と予測します。

ブロイラー市況(もも肉・東京)
平成29年6月～29年11月
平成28年6月～28年11月
(単位: 円/kg)



鶏 卵

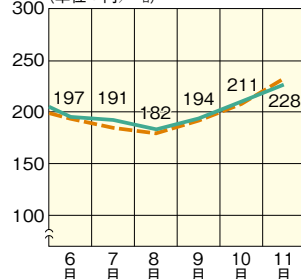
強含みの展開

11月の東京相場の月間平均は、Mサイズ基準値228円(前年比-3円)となりました。

業務筋は、天候不順が少なかったことから前月よりも堅調な荷動きとなり、テーブルエッグについても前月に続き定番、特売ともに引き合いが強い状況が続きました。また、外食チェーンが鶏卵を使用したキャンペーンを積極的に実施していることも、相場を下支えしています。

今後は最需要期に向けて生産量はピークを迎えるものの、テーブルエッグ、業務・加工筋とも引き合いがさらに強くなると考えられ、高病原性鳥インフルエンザが頻発した昨年ほどの水準ではないものの、相場は強含みで推移するものと予測します。

鶏卵相場(東京・Mサイズ基準)
平成29年6月～29年11月
平成28年6月～28年11月
(単位: 円/個)



米粉でもちもち食感 「はるみうどん」開発!

新米「はるみ」と同時期に発売

神奈川県本部秦野総合工場は、「はるみ」米粉入り乾麺「はるみうどん」を開発しました。全農が開発した良食味米「はるみ」の消費拡大と知名度向上に一役買おうと、10月から県内のJA直売所やJA組織購買で販売しています。JAタウン「全農かながわショップ」でもご購入いただけます。【神奈川県本部】

国産小麦粉に「はるみ」米粉を約1割加えた「はるみうどん」は、のどごしが良く、もちもちとした食感が特長。通常、米粉を加えた分だけ小麦粉が減り、麺のコシを強めるグルテンも減りますが、ほど良い麺のコシを実現。工場では、エコープマーク品「国産小麦粉・国産米粉使用うどん」を製造しており、その技術を応用しました。

製品化に当たり農産販売課が加工用の「はるみ」を調達し、農産物1次加工品を扱うプロジェクト推進課が米粉加工の調整を担うなど、部署間で連携しました。

「はるみ=晴れた海」を連想させるパッケージ。中身が見える透過窓は米粒の形



米粉入りでもちもち感アップ。
細めの角麺でゆで時間短縮

秦野総合工場は「目標にしてきた県産素材を使った乾麺が完成しました。今後も製麺技術を駆使し、各地の農産物を生かしたオリジナル乾麺を開発したい」と話しています。

全農 ZEN-NOH

JA全農
オフィシャル
アプリ

トピックス ポイント クーポン

「食と農」の情報を広く消費者へ!
スマホアプリを公開中

JA全農のイベントや新商品に関する最新情報がさらに充実! 作動環境: スマートフォン iOS8以上 Android4.3以上



JAタウン
ショップ紹介

JAタウン | 検索
クリック

全農長野 僕らはおいしい応援団



JAみなみ信州市田柿 化粧箱
(1箱700g²、20~28個).....4000円

いちだがき
「市田柿」は、長野県飯田下伊那地方の天竜川のほとりで生産された良質な柿を原料として衛生的に加工されています。皮をむかれた市田柿が「柿すだれ」となって農家の軒先に並ぶ頃には、毎朝天竜川の川霧があたり一面を覆います。この天然の加湿器が乾き過ぎを防ぎ、じっくりじっくりと干し上がっていくのです。

幾分小ぶりの干し柿ですがもっちりとした食感と天然の甘味の素朴な味はほのぼのとした郷愁と美しい自然を思い起こさせることでしょう。食物繊維もたっぷり。どうぞお茶の友としてご賞味下さい。

なお、ご紹介した商品は、12/22(金)まで、FAXでもご注文を承ります(ご自宅宛代金引換のみ)。

【ご注文方法】①商品名、規格、数量②郵便番号③住所④氏名⑤電話番号⑥FAX番号をご記入のうえ、FAX番号03-5218-2517までご送信ください。
商品代金のほか、クール代、送料が必要となります。

JA全農のインターネット ▶ご注文は <http://www.ja-town.com>
ショッピングモール ▶お問い合わせは shop@ja-town1.com

※本誌を通じていただいた注文などで取得した個人情報、商品等の発送にのみ使用します。